様式第６号（第１７条関係）

# 会　議　録

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 会議の名称 | | 令和８年度　第２回春日部市社会教育委員会議 | | |
| 開催日時 | | 令和８年１０月２６日(月) | 開　会 | 午前・(午後)　２時００分 |
| | | | 閉　会 | 午前・(午後)　３時１５分 |
| 開催場所 | | 春日部市役所２階　会議室２０１ | | |
| 議長(会長等)氏名 | | 委員長　林 雅子 | | |
| 出者 | 委員氏名 | (出席人数：９人)金重 光江、松田 洋子、樋口 京子、関 千知、出山 知宏、林 雅子、中島 信一、山田 農久、有馬 廣實 | | |
| | 説明者その他 | | | |
| | 事務局 | (出席人数：７人) 社会教育部長 関根 栄治、社会教育部次長 井崎 圭介、社会教育課長 柴山 伸之、社会教育課生涯学習推進担当課長 石塚 晴美、社会教育担当主幹 梅津 裕介、社会教育担当主任 高島 美香、社会教育担当主事　辻 侑華 | | |
| 次第及び公開・一部公開・非公開の区分 | | 開会、あいさつ、<br>説明１　春日部市の生涯学習推進について<br>報告１　春日部市社会教育委員の委嘱について<br>報告２　春日部市民生委員推薦会委員の推薦について<br>報告３　各委員会等の報告<br>事務連絡、閉会　（全て公開） | | |
| 一部公開・非公開の場合はその理由 | | 非公開部分はありません | | |
| 配布資料 | | ・次第<br>・令和８年度 第２回春日部市社会教育委員会議会議資料<br>資料１　第２次春日部市生涯学習推進計画<br>資料２　春日部市社会教育委員の委嘱について<br>資料３　春日部市民生委員推薦会委員の推薦について<br>資料４　各委員会等の報告<br>・別冊　第２次春日部市生涯学習推進計画<br>令和７年度実施計画関連事業 実績報告<br>・令和８年度 春日部市の公民館<br>・「第２０回記念 春日部市美術展覧会」のご案内 | | |
| 会議録の作成方法 | | ■　録音テープ等を使用した要点記録 | | |
| 会議録署名の指定 | | 春日部市社会教育委員会議運営要領第３条第２項により会議の署名は、委員長が行う。 | | |

| 発　言　者 | 発言内容　・　決定事項 |
|---|---|
| 事務局 | **１　開会** |
| | 　９名の出席があり、春日部市社会教育委員会議規則第３条の定める定足数に達していることの報告。 |
| | 　会議公開制度に基づき、議事の全てを公開とし、傍聴者数５名以内とすることの報告。 |
| | |
| 委　員 | **２　あいさつ** |
| | |
| 議長 | **３　【説明１】春日部市の生涯学習推進について** |
| | |
| 事務局 | （資料１により事務局から説明） |
| | |
| 議長 | 　ただいまの説明について、ご質問等はございますか。 |
| | |
| 委員 | 「いつでも　どこでも、誰でも」について、１００％の達成は難しい。服役中や入院中の人、不登校のこども等への対応はどこまで考えているのか。 |
| | 「市民と行政が一体となったまちづくり」の、一体とは、どの程度までを考慮しているのか。 |
| | |
| 事務局 | 　１００％の実現は難しい事は確かですが、そこを目指して行く、という目標として掲げているものです。 |
| | 　服役中、入院中の方も学習したい時にできるよう関係機関に働きかけていき、実現させたいと考えています。 |
| | 　「市民と行政が一体となったまちづくり」に関しては、かすかべし出前講座で、市のまちづくりについて学びたい市民に対し、担当の職員が話をする事を行っています。このような機会を提供し、パブリックコメント等で、市民の意見を聞く機会を設けることにより、行政と市民がお互いの意見を尊重しながらまちづくりを進めれるような環境の整備を目標としています。 |
| | |
| 委員 | 　「高度化・多様化」する生涯学習要求に、どこまで対応しようとしているのか。 |
| | |

| 発　言　者 | 発言内容　・　決定事項 |
| --- | --- |
| 事務局 | 高度化については、１０年前とは大分違い、AIが出てきたりして、どこまで対応出来るのかをこれから考えて行きたいと思います。<br>市としては、個人が学びたいと相談に来たときに、ここで学びたい講座をやっていますよ等、学べる機会について情報提供が出来ると良いと考えています。 |
| 議長 | 今の回答で、「いつでもどこでも」については、学びたい人がいたら、入院中でも学べる環境作りを意識している。「市民と行政が一体となった」事については、一方的ではなく、市民の声を聞きながら作って行く事を大事にしている。「高度化・多様化」についても、環境が大きく変わって行く中で、うまく取り入れながら対応して進めていると理解をしました。よろしいですか。 |
| 委員 | わかりました。市民は専門職として行政を信頼している。一文で書かれていると、どのレベルまでの事を行政がやってくれるのか不明であるので確認の意味でお聞きした。 |
| 委員 | 生涯学習の様々な講座があり、実績もあるようだ。<br>放課後こども教室では学校で学べないことやスポーツ関係の指導をしてくれる方がいる。そのように、学んだことをアウトプットする機会はあるのか。 |
| 事務局 | 学んだ事を地域に還元する、と言うところでは、「春日部市生涯学習人材情報登録者」という制度を設けて、登録をしてもらっている。この中から、市民の方の希望に添った講師を紹介するコーディネートを行っている。また、生涯学習推進担当の事業として、「市民塾」を実施している。前期・中期・後期と時期を分け、前期に３０講座程度、中期、後期も同じように設定し、講師を人材情報登録者に依頼し、市民の参加者を募り事業を展開している。 |
| 委員 | ２０～４０代の現役世代に向けた講座は、学んだ事を仕事に生かせないと難しい。実際問題、現役世代は、学んだことをお金にしていかなければならない。コンプライアンスが重要視されてる中で、国家資格だと、なかなか追いつかない部分で、民間の資格がでてきている。資格を持ち合わせない者は、事業を請け負うことが制限されたりしている。 |

| 発　言　者 | 発言内容　・　決定事項 |
| --- | --- |
| | オンラインの講座などもあるので、地元の企業に還元出来るような講座の開催も考えてはどうか。例えば、建設業でいうとハーネスとか高所作業関係などの講習を誰でも気軽に受けられて、企業に還元することで、企業の税金により、春日部市がさらに豊かになるような循環が出来るのではないか。学びの中でも、仕事に結びつくような学習も取り入れてもらえると現役世代はうれしいと思う。 |
| 議長 | 学んだ事を人に教えると、教える側も知識が定着するので、良いと思う。また、民間の資格の講座を作っていくという事はとても良い意見だと思いました。来年から新しい推進計画を策定していく中で検討して欲しい。 |
| 議長 | **４　【報告１】春日部市社会教育委員の委嘱について** |
| 事務局 | （資料２により事務局から説明） |
| 議長 | ただいまの説明について、ご質問等はございますか。 |
| 委員 | （質問なし） |
| 議長 | **５　【報告２】春日部市民生委員推薦会委員の推薦について** |
| 事務局 | （資料３により事務局から説明） |
| 議長 | ただいまの説明について、ご質問等はございますか。 |
| 委員 | （質問なし） |
| 議長 | **６　【報告３】各委員会等の報告について**<br>報告書について、委員の皆様から報告事項はございますか |
| 委員 | （報告事項なし） |
| 議長 | 最後に、本日の会議全体を通して、ご質問等はございますか。 |

| 発　言　者 | 発言内容　・　決定事項 |
| --- | --- |
| | |
| 委員 | （質問なし） |
| | |
| 事務局 | **7　事務連絡** |
| | （事務局から諸連絡） |
| | |
| 事務局 | **8　閉会** |
| | （樋口副委員長より閉会あいさつ） |

議事の顛末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

令和８年　１１月 １２日

署名者の職・氏名

委員長　　林　雅子